

## 本校卒業及び在籍された方の進路及び就職先についてのアンケートまとめ

### 【進路及び就職等において】サンホセ日本人学校でよかった点

- ①先生と一緒にマンツーマンで勉強できる事は、とても良いと思っています。直接、自分が分からない事を明らかにする事ができるので、学習内容の理解が早いです。
- ②コスタリカの学校では教えない数学の計算方法、問題の解き方等がとても役に立ちました。IPICIM校では1学期の成績が優秀だとその後の試験は免除されますが、お陰様で数学はいつも免除されていました。
- ③理科の授業がとても楽しかったです。理由はいろいろな実験をしてくれたからです。大学でも実験はありますが、日本人学校で経験したたくさんの実験のほうがより興味深かったと思います。

- ・コスタリカで生まれ育ちました。父が日本人、母がコスタリカ人、子供3人という家庭で、幼少期はスペイン語のみの環境でした。仕事で忙しい父が子供に日本語を教えるのはなかなか難しいことだったと思います。日本人学校のおかげで漢字の読み書きもできるようになり、両言語ともネイティブのバイリンガルになることができたので、通えて本当に良かったと感謝しています。
- ・現在、東京で某大使館に勤めており、日本語とスペイン語を活かした仕事につくことができて良かったです。

- ◆コスタリカにも全国各地にも知り合い（友達、先生、仲間）がたくさんできた。  
→将来の進路選択のときに、このつながりがどこかで生きるといいと思う。
- ◆一人一人の発表の場が多くてよかった。
- ◆海外にいるからこそ、（日本にいるよりも）日本の文化を深く学べた。
- ◆日本ではできない様々な経験ができた。  
→現地校との交流や日常的にスペイン語や英語が求められた。  
＝帰国後の英検受験につながった。  
→他の地域の人たち（各都道府県）とのつながりや他国の日本人学校の人たちとのつながり（オンライン）ができた。  
＝環境が変わってもすぐに友達と交流できる自信がついた。  
→様々な職種の皆さんのお話が聞けた。  
＝将来の職業選択の参考になりそうな話が多く聞けた。
- ◆少人数のため、先生方がそれぞれの力に合わせた授業をしてくれた  
→中学部では、同級生全員が英語力が高く、担任の先生の教科が英語だったため、自分自身、英語の力がとても身についたと感じている。（朝の会を全て英語、またはスペイン語で行う等）
- ◆現地校ではなく日本人学校に通ったことは、僕たちのようにいずれ日本に帰国することが決まっている人たちにとっては、帰国後の勉強がスムーズにできるというメリットがある。
- ◆少人数の小中学校のため、小1から中3までがそれぞれのことを考えて行動しなけければならなかった。  
→よく考え、お互いを尊重して行動することが求められ、年の差がある人たちに対する対応の仕方を学べた。

・日本にずっといれば、得られなかった国際感覚や年齢を超えた友達作りの経験が大きいです。

・コスタリカの人達と日常的に触れ合う環境で、日本人とは異なる文化や価値観を持っている人が世界にはいっぱいいると幼い時に経験できたことのは、海外の方と交流する際、大きな勇気になりました。

・当時、私が在校中の時は全校生徒で30名前後でした。1つのクラスの人数が少ないことは今も変わらないかもしれませんが、年功序列の色が良くも悪くも強い日本では得られなかった、年齢の壁を超えた友達作り、年上の人が自然と年下の人をフォローするというのは、社会に出た今でも、とても大切な感覚です。

・私が在籍していた当時は同級生が5、6人しかいなかったが、人数が少ない分、みんなで仲良く遊んでいたように思う。35年以上経つ現在でも、何名かにつながっている。異国での生活は子供なりに不安だったと思うが、日本人学校で友人もできて、のびのびと生活できたと思う。それが今の性格や人格形成につながっている。現在の弁護士業では争いへの対応が主となるが、冷静かつ温和に対応ができています。

・日本人学校の経歴は、とてもユニークであるため、新しい環境で自己紹介する際に覚えてもらいやすい。

・コスタリカで生まれ育ちました。人数が少ない分、例えば、体育の時間で跳び箱が何回も飛べたことがよかったです。(私事ですが、帯広で3人の子育てをしましたが、1クラス35人授業が40～45分の間だとすると、跳び箱で飛べる回数が数回というのを見て、改めてサンホセ日本人学校で育った私は覚えるまで何回も飛べたことがよかったですなと思いました。)先生方の指導で細かく教えてもらえるところがとてもよかったです。

・コスタリカで育ったので、日本の方言などを先生方の出身地で聞くことができてよかったです。(テレビで日本語に触れることがなかなかなかったので新鮮でした。)

・先生方の知恵で、教材がない分、手作りで豆電球の流れを教えてもらったり、四季がない分コスタリカのメダカや虫で勉強したりと。皆既日食があった年は全校生徒で海岸まで行き、全員で観測しました。

・小1～中3までの児童生徒をうまく上級生と下級生が混ざるように4～5班に分けて、全員で掃除の時間があつたことはよかったです。上級生に教えてもらって掃除ができるようになっていきました。

・帰りの会を講堂で小1～中3まで全員で並んで校長先生の話聞き、毎日先生方に送られて下校しました。とてもよかったです。

コスタリカで生まれ育ちました。父が日本人、母がコスタリカ人という家庭で、三姉妹の次女です。幼少期はスペイン語のみの環境で生活していましたが、日本の親戚と日本語で会話ができるようにと、両親の意向で日本人学校に通うことになりました。そのおかげで、漢字の読み書きをはじめ、日本語もネイティブレベルで習得することができ、スペイン語とともに二言語を自在に使えるようになりました。また、幼い頃から日本とコスタリカ、両方の文化に触れてきた経験は、私のアイデンティティや価値観を豊かにしてくれたと感じています。両方に属しながら、どちらでもないと感じることもありましたが、そうした葛藤を乗り越えたからこそ、より柔軟な視点を持ち、多様な価値観を受け入れられるようになりました。そして今では、その経験を活かし、両国の文化や人々をつなぐ「架け橋」のような存在でいられることを誇りに思っています。

この学校で学んだことのメリットの中でも、特に、先生方、生徒、そしてそのご家族が安心して交流できる、家庭的な雰囲気が挙げられます。環境は明るく健全で、少人数制のため、授業は一人ひとりに寄り添っていました。日本の文化的価値観を教えてくれたことは、私の成長にとって最も重要なことでした。

私はコスタリカで生まれ育ち、2人の姉も同様にコスタリカ出身です。姉たちと私は3人とも日本人学校に通っておりました。当初は、家庭内で日本語を話していたのが父と姉たちのみだったため、日本語の習得には少し苦労しました。しかし、すでに日本語が堪能な姉たちが身近にいたことは大きな助けとなりました。一方で、母とはスペイン語で会話をしていたため、日常的に両言語を使う環境で育ちました。そのような経験を経て、現在では日本語とスペイン語の両方を問題なく話すことができるようになりました。また、父の母国の文化にも触れる貴重な機会を得て、人生において二つの文化を大切にしながら育つことができ、とても感謝しております。

- ・日本人の自覚を持つことができた。
- ・日本特有な習慣(清掃・帰りの会)を学べ、授業以外のプロジェクト活動が充実していた
- ・親身に対応くださる先生方と出会えた。
- ・学校施設が充実している。

日本人学校では人間性を磨く場所のように思います。謙虚さや慎ましさを持ち合わせる方々と海外にてお会いするのはとても稀です。また、日本人学校で教わる課題を遂行するための意欲、真面目さは就職後、一目置かれる存在になります。人として、社会人として、必要不可欠な人間性を日本人学校で育むことができます。他人を尊重し特性を見出す能力は個性あふれる生徒たち、異国文化と触れ合える学校で身につけられると思います。